

未来を拓く協同組合

教えて! 日本農業

監修=JCA(日本協同組合連携機構)



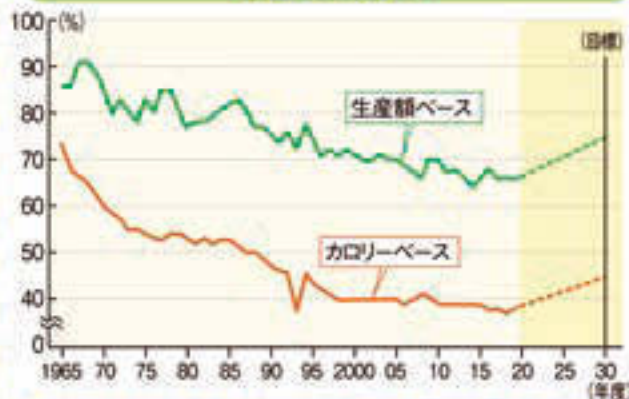
食料自給率

食料自給率は、わが国の食料全体の供給に対する国内生産の割合を示す指標です。特に、供給熱量(カロリー)ベースの食料自給率は、米の消費が減少するなどの食生活の変化により、長期的に低下傾向が続いてきました。2019年度は前年度より1ポイント増の38%となりましたが、依然として低水準にとどまっています。

一方、生産額ベースの自給率は66%で、カロリーベースより30ポイントほど高くなっています。これは国内において、カロリーベースでは数値として反映されにくい野菜などの自給率が高いためです。しかし、生産額ベースの自給率も長期的に見て低下傾向にあります。

将来にわたって食料を安定的に確保するためには、食料自給率を高めることが重要であり、JAグループは、水田をはじめとした農地の活用や保全対策など生産基盤の強化や、国産需要の拡大を目指し、実需者との多様な契約方式による生産・販売の拡大などに取り組んでいます。

食料自給率の推移



▷2030年度の目標 カロリーベース 45% 生産額ベース 75%

2019年度の自給率

カロリーベース	38%	1人1日当たり国産供給熱量(918kcal) / 1人1日当たり供給熱量(2,426kcal)
生産額ベース	66%	食料の国内生産額(10.3兆円) / 食料の国内消費仕向額(15.8兆円)

- ⇒ 供給熱量(カロリー)ベース食料自給率: 基礎的な栄養価であるエネルギー(カロリー)に着目して、国民に供給される熱量(総供給熱量)に対する国内生産の割合を示す指標
- ⇒ 生産額ベース食料自給率: 経済的価値に着目して、国民に供給される食料の生産額(食料の国内消費仕向額)に対する国内生産の割合を示す指標

農水省資料をもとに作成



まず育てる

野菜づくりがはじめての方にもよくわかるよう、野菜ごとに畑の準備から収穫まで



もっと育てる 栽培の応用

野菜ごとの性質に着目し、常識を超えた栽培方法の数々を提案。増やせる、長くとれる。

知る・楽しむ

土づくりや病害虫対策、とれたて野菜のとおきのおきの食べ方や市場に出回らない希少野菜・品種の育て方など



隔月刊

家庭菜園雑誌

やさい畑

定価:922円(税込) [A4変形版] ●年間6回発行



家庭菜園ですぐに役立つ栽培の実用情報をとことんお届けします

お申し込みはお近くのJAへ

「やさい畑」の人気連載

- ・作付け王の省エネ菜園塾
- ・イガさんの菜園実験室
- ・スマイル農園のなるほど栽培
- ・木崎流 野菜づくり道場